

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

平成15年度病虫害発生予報第8号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成15年度病虫害発生予報第8号（11月）

【野菜】

作物名	病虫害名	発生現況 ( 平年比 )	発生予想 ( 平年比 )
イチゴ	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ類 ハダニ類	並 やや多い やや多い 多い	並 やや多い やや多い 多い
冬春ナス	うどんこ病 灰色かび病 すすかび病 ハモグリバエ類	並 並 やや少ない やや多い	並 並 やや少ない やや多い
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	並 並 やや少ない	並 並 並
レタス	菌核病 灰色かび病	並 並	並 並
ネギ	シロイチモジヨトウ ネギハモグリバエ	やや多い 多い	やや多い 多い
野菜共通	ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ オオタバコガ	並 並 並	並 並 並

・平年値（過去10年間の平均）がない場合は、前年までの平均値を用いた。

【野菜】

1 イチゴの炭疽病

（*Colletotrichum acutatum* 菌による葉枯れ炭疽及び *Glomerella cingulata* 菌による

炭疽病)

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、発病株率は1.1% (平年：0.2%、前年：0.4%)であった。

イ 気象予報では、11月の気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗期に本病が発生したほ場では、本ほでも発生する可能性が高い。

イ 発病を認めた場合は発病株を早めに除去し、適正に処分する。

ウ 茎葉の濡れている時間が長いと感染、発病しやすいので通風を良くする。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。

2 イチゴのアブラムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、寄生株率は1.9% (平年：0.6%、前年：3.9%)であった。

イ 気象予報では、11月の気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。

3 イチゴのハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、寄生株率は5.0% (平年：0.5%、前年：0%)、発生ほ場率は37.0% (前年：0%)であった。

イ 気象予報では、11月の気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ハダニ類の発生は定植直後から認められ、ビニル被覆後の10月中旬頃から増加し、その後、厳寒期には増加は緩慢となるが、2月下旬頃から急激に密度が上昇する。

イ 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。

ウ イチゴ以外の植物にも寄生するので、ほ場周辺作物や雑草の薬剤防除、除草を行う。

エ 寄生した株の葉かぎ後の複葉や抜き取った雑草は、ほ場周辺に放置せず速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。

#### 4 冬春ナスのハモグリバエ類

##### (1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

##### (2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、被害株率は9.0%（平年：32.5%、前年：2.0%）であり、被害葉率は10.5%（平年：3.9%、前年：2.0%）であった。

イ 気象予報では、11月の気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に十分注意し、初期防除を徹底する。

イ ほ場周辺の雑草は増殖源になるので、丁寧に除去する。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。

#### 5 キャベツのコナガ

##### (1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年より多い

##### (2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、寄生株率は2.8%（平年：7.6%、前年：1.1%）であった。

イ 気象予報では、11月の気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

ア 老齢幼虫、蛹及び卵には防除効果が低いので、若齢幼虫期を対象に防除を行う。

イ 結球期まで、重点的に防除を行う。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。

#### 6 ネギのシロイチモジヨトウ

##### (1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

##### (2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、被害株率は4.3%（平年：0.3%、前年：0%）であった。

イ 朝倉町長洲のフェロモントラップによる誘殺虫数は、9月5半旬～10月2半旬で169頭（平年：194.4頭、前年：183頭）、10月2半旬～10月5半旬で139頭（平年：141.9頭、前年：114頭）であった。

ウ 気象予報では、11月の気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

##### (3) 防除上注意すべき事項

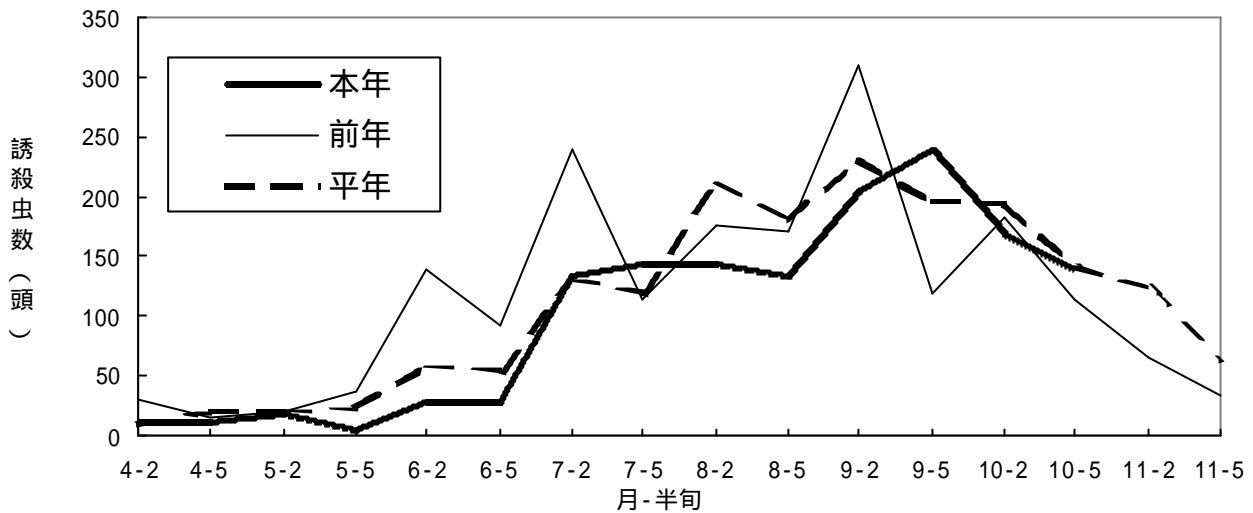
ア 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

ウ 葉身に産下された卵塊から孵化した幼虫は、そのまま葉身内に食入し内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去す

る。

エ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺虫数の推移 (朝倉町長洲)

## 7 ネギのネギハモグリバエ

### (1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年よりやや多い

### (2) 予報の根拠

ア 10月5半旬調査の結果、被害株率は11.5% (平年：3.4%、前年：8.3%)であった。

イ 気象予報では、11月の気温は高く、降水量は平年並と予想されている。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 幼苗期に防除を徹底する。

イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため1mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーションで散布する。

# 11月の気象予報（1か月）

（予報期間11月 1日～11月30日）

2003年10月31日

福岡管区气象台発表

## 【概要】

向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わります。

## 【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

- < 1週目の予報 > 11月 1日～11月 7日  
この期間の平均気温は、平年より高い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 11月 8日～11月14日  
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 11月15日～11月28日  
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

## 参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の  
平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
13.4	80.5	133.2	15.6	14.5	12.2

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス

<http://www.jpnp.ne.jp/fukuoka>

電子メールアドレス

[kfok0301@sp.jpnp.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpnp.ne.jp)